



遠藤 誠 議員  
(WAKABA)

**問** 白岡・新白岡駅の自由通路  
について

白岡駅の大きな掲示板は横4m縦1.2mもあり市と市関連団体のポスターでは見栄えがしない。かつて所有者が使うという方式に直したが、通路の空間をプロデュースし市民の福祉向上という観点から市民に役立つ情報を提供するべきと考えるがいかがか。

**答** 有用な情報が提供される  
よう努める

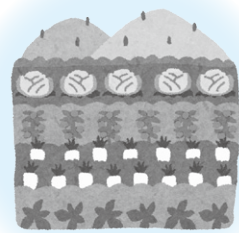
現在、駅の掲示板はイベント等の周知や健康増進に係るお知らせを掲示し、また、各団体が会員募集等に活用している。引き続き、市政情報をはじめ、市民活動や余暇の充実に寄与するような情報が提供されるよう努めるとともに、美観に配慮していく。

**問** 休耕地へ空き地の環境保  
全条例の適用を

篠津北東部の休耕地の防火、防犯は大きな問題である。1月に市のホームページに農地の適正な管理の記事があったが、ホームページが広報媒体として適切か疑問に思う。地権者に文書で空き地の環境保全条例の適用を進めるべきと考えるが、その適否と時期は。

**答** 農地の適正な管理を  
お願いしていく

不耕作農地について、農業委員会で現地調査を進めている。空き地の環境保全に関する条例では「助言又は指導」、「勧告」、「命令」、「緊急安全措置」ができる制度となっているが、まずは農地の地権者に対し、適正な管理についてお願いをしていく。



関口昌男 議員  
(日本共産党)

**問** 国民健康保険制度の課題

国において国民健康保険制度についての論議が始まっている。内容は均等割の一部削減を実施しようとするものである。これは、全国自治会や市長会などの運動の成果であるが、この際、市においても独自に均等割の削減を検討してはいかがか。

**答** 均等割削減について  
国に要望していく

均等割の削減については、公的保険制度のあり方を検討する中で、持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の課題として、国で議論されるべきものと考えている。今後も機会を捉え、全国市長会等を通じ、国に要望していく。

**問** コロナ禍における  
市民生活防衛制度は

コロナ禍の中で生活防衛のための制度として、生活保護や生活福祉貸付制度がある。この利用実態はどの様なものか。また、生活保護制度の運用について、「扶養照会」が障害になっていると国会でも論争になっている。市においても廃止を含む運用の改善をしては。

**答** 切れ目のない支援を  
継続する

新型コロナウイルス感染症拡大を原因とした離職等による生活保護申請は2件、総合支援資金の特例貸付が107件、延長が67件、緊急小口資金の特例貸付が147件の決定となった。また、扶養調査は自立を阻害することのないよう適切に対応していく。

